

2020年11月22日～28日 各家庭でのディポーション用テキスト

神が人を訓練される時。
人の心に躍動を与えられる時、
人を熟練した者に仕上げられる時、
最も高貴な役割を演じさせようと
人を練り上げようとされる時、
全世界を驚嘆させるほどの
勇敢で偉大な人にしたいと
心から願われる時、
神がどんな方法を用い、
どんな道を選ばれるか
心して見てほしい。
神が手ずから選ばれた者を
いかに容赦なくつくり上げられるかを。

たとい人が苦しみうめいて叫びを上げ
助けを求めてもろ手を上げて、
神はなおも打ちたたいて
幾たびも激しいあらしの中にさらし
ご自身のみが知られる土の型に
つくり上げられる。
神は選び取られた者を
みこころのままに用いられ
目的に合わせて練り直し、
導いてくださるのだ、
一つ一つの行為がいつも
神の光輝となるように。
神はご自身の手がける作品を
どうしたらよいか知っておられる。

■中傷に対する訓練(1/3)

ほうっておきなさい。彼にのろわせなさい。主が彼に命じられたのだから。……
主は、きょうの彼ののろいに代えて、私にしあわせを報いてくださるだろう。

(Ⅱサムエル 16:11, 12)

自分の犯した誤りのためであるなら、どのような懲らしめを受けようとも、それを感謝して、じっと耐えるのは、当然のことである。「けれども、善を行なっていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです」(1ペテロ 2:20)。口答えしたい思いにかられるとき、受けたののしりに利子をつけて返したいと思うとき、あるいは、非難を受ける余地もないはずなのに非難を受けて、自分を弁護し、自分の行動を釈明したいと思うときには、このみことばを記憶しよう。「人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。……あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。キリストは……ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました」(2:19-23)。

これはまことに深遠な、たましいの訓練である。これを実行することが、真に神の子であることの証拠である。主イエス・キリストは言われた。「しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです」(マタイ 5:44, 45)。

ダビデがシムイの前でとった態度は、中傷される者がどのような訓練を受けるかを示す、実によい例である(Ⅱサムエル 16:5-14)。自分をのろうこのベニヤミン人に出会ったことは、ダビデにとって、これまでにない残酷な拷問を受けることと同じであった。彼はすでに年老いていたばかりでなく、自分の都を追われる身の上であった。しかも、こうしたことはすべて、彼がこの上なく愛したわが子アブシャロムの反逆が原因となっていた。このアブシャロムの計画的な反逆に加えて、シムイの侮辱的なことばの数々が、ダビデの心に深い傷を負わせたのである(15:4、「ああ、だれかが私をこの国のさばきつかさに立ててくれたら(よいのに)」というアブシャロムの言葉と比較せよ)。傷ついた老父の心に、毒舌が浴びせられた。「出て行け、出て行け。血まみれの男、よこしまな者」(16:7)。このことばは、彼に投げつけられる石(13節)よりもさらに強く彼の心を射た。

シムイのこののろいのことばを聞いたダビデの力ある家来たちは、がまんしきれず、ついにアビシャイが、彼らの激しい怒りをぶちまけてダビデに願った。「この死に犬めが、王さまをのろってよいものですか。行って、あの首をはねさせてください」(9節)。

これに対するダビデの答えには、思い誤っている者に対するやさしさと、神に対する強い信頼がよくあらわれている。「彼にのろわせなさい。……主は私の心をご覧になり……私にしあわせを報いてくださるだろう」(11, 12節)。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第七章「中傷に対する訓練」より】
※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。